

緑茶用晩生品種「おくはるか」の特性					
[要約] 本県における「 <u>おくはるか</u> 」の特性は、「 <u>おくみどり</u> 」と同等以上の収量で、荒茶品質は「 <u>やぶきた</u> 」と比較して一番茶は劣るが二番茶は優れる。 <u>炭疽病</u> 、 <u>輪斑病</u> および <u>クワシロカイガラムシ</u> の発生は「 <u>やぶきた</u> 」よりやや少ない。					
佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当				連絡先	0954-42-0066
部会名	茶業	専門	栽培	対象	茶

## [背景・ねらい]

系統適応性検定試験第10群から「おくはるか」が品種出願公表されたので、普及の参考とするため本県への適応性を示す。

## [成果の内容]

- 「おくはるか」の一番茶生育は、「やぶきた」よりも萌芽期で11日、摘採日で7日遅い、「おくみどり」並みの晩生品種である(表1)。
- 「おくはるか」の生葉収量は、一、二番茶共に「やぶきた」よりも多く、「おくみどり」並である(表2)。
- 「おくはるか」の荒茶品質は、一番茶は「やぶきた、おくみどり」より劣り、二番茶は「おくみどり」より劣り、「やぶきた」より優れる(表3)。また、桜葉様の香気が特徴的である。
- 「おくはるか」の耐病虫性は、「おくみどり」と比較して、炭疽病はやや弱く、輪斑病は同程度で、クワシロカイガラムシはやや強い(表4)。

## [成果の活用面・留意点]

- 山間部や寒冷地向きの晩生品種であり、凍霜害の発生をある程度回避できる。
- 苗木は、許諾を受けた育苗業者から購入し、チャトゲコナジラミ発生地域からの導入は行わない。
- 品種の詳細な特徴の問い合わせ先(育成機関)  
埼玉県農林総合研究センター茶業研究所 Tel: 04-2936-1351
- 施肥管理  
定植当年は、被覆肥料で N:P:K=27.4:23.5:27.4 (kg/10a)を施用し、3年目以降は N:P:K=50:20:24(kg/10a)を3年生で55%、4年生で70%、5年生で85%、6年生以降100%の割合で施用した。

[具体的なデータ]

表1 一番茶萌芽期および摘採日

品種	2007年		2008年		2009年		3カ年平均	
	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日	萌芽期	摘採日
おくはるか	4.16	5.11	4.14	5.8	4.10	5.1	4.14	5.7
おくみどり	4.15	5.8	4.15	5.7	4.9	5.1	4.13	5.6
やぶきた	4.8	5.3	4.6	5.4	3.26	4.22	4.3	4.30

注)2003年3月定植。

表2 生葉収量

(Kg/10a)

品種	2007年		2008年		2009年		3カ年平均	
	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶	一番茶	二番茶
おくはるか	320	250	267	462	291	457	293	390
おくみどり	248	231	249	394	376	464	291	363
やぶきた	230	157	217	306	280	360	242	274

注)畝間180cm、株間30cmの単条植え。

表3 普通審査法による荒茶品質<sup>注1)</sup>

品種	一番茶						二番茶					
	形状	色沢	香氣 <sup>注2)</sup>	水色	滋味	合計	形状	色沢	香氣	水色	滋味	合計
おくはるか	8.0	8.0	6.5	7.2	6.0	35.7	5.7	5.5	4.8	4.8	4.2	25.0
おくみどり	8.7	8.8	8.8	7.3	7.5	41.2	5.8	4.8	5.2	5.5	5.3	26.7
やぶきた	8.2	8.2	7.8	7.8	8.0	40.0	4.7	4.7	4.3	5.0	4.5	23.2

注1)2007～2009年の平均値、各項目10点、合計50点満点での評価。

注2)「おくはるか」は桜葉様の香氣が特徴的であった。

表4 病害虫発生程度

品種	炭疽病	輪斑病	クワシロカイガラムシ
おくはるか	2.0	1.0	2.3
おくみどり	3.3	1.0	2.7
やぶきた	3.3	2.0	2.7

注1)2007～2009年の平均値、(無)1～(甚)5。

注2)耐病虫性調査のため試験期間中は殺菌剤並びにクワシロカイガラムシ防除剤は全て無散布。

[その他]

研究課題名：優良品種導入のための県内適応性検定及び栽培法の確立

予算区分：県単

研究期間：2001年～

研究担当者：中村典義・東島敏彦・徳重憲治・野中一弥・釘本和仁・山口史子・高木智成